

就職力を身につけるには
就職するための条件を考える

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

私は、宇都宮大学大学院の客員教授をさせていただいています。先週のこの放送で、宇都宮大学工学部の3・4年生に向けて授業をしたこととお話させていただきました。その中で、学生の皆さんから多くの質問がありました。最も多かった質問は、就職するにあたってどのようにしたら採用試験に合格することができるかというものでした。

2. 採用試験に合格するには

(1) 宇都宮大学工学部の学生の皆さんは、約半分が就職し、約半分が進学して大学院生になります。そこで、就職を希望する皆さんから、上記の質問が多く出されたのです。

かつては工学部の学生は非常に就職率が高かったのですが、今は全員が全員自分の希望するところに就職できるとは限りません。そのような状況のため、当然でしょうが自分の希望する就職先にどのようにしたら就職できるかを気になさっている方が多いと思われます。

今日は、私が授業中にその質問に答えた内容を紹介させていただきます。皆様も一緒にお考えいただければと思います。

(2) 就職を考えるときに一番大切なのは、何のために働くのか・社会に出てどのような生活がしたいのか・どのような一生を送りたいのかなどを、一度は深く考えたほうがよいということです。

私は、自社の開倫塾のほかにもいろいろな団体の役員を務めておりますので、何度も採用試験の面接官をさせていただいています。そこで一番思ったことは、自分は何のために働くのかがわかっていて、社会に出てからどのような活動がしたいのかがはっきりしている方、その会社や団体など勤務先で何がしたいのかがきちんと言え方、どのような一生を送りたいのかを自分なりに深く考えている方はとてもすがすがしく見えて、その会社や勤務先で働いていただくことになったときにより仕事ができるのではないかと予想できるということです。さらに本当のことを言いますと、自分が死んだ後、後の世に何が遺せるか、亡くなったあとにどのようなことを世の中に遺したいのか、自分の社会的使命を少しでも考えている方はより一層素晴らしいと感じます。

(3) そのためにはどうしたらよいかということ、私は2つ提案させていただきました。

(ア) 1つは、読書をして思慮深さ、自分を振り返る力を身に付けることです。本は、著者の方

や編集の方が一所懸命に作ったものです。ですから、本を読むと、自分自身を振り返る力つまり省察力(しょうさつりょく)や、自分自身を深く見つめて注意深く考える力、つまり思慮深さを身に付けることができますと思います。

(イ)どのような本を読んだらよいかという質問もありました。私のお薦めする1冊めは、内村鑑三さんが著した「後世への最大遺物、デンマルク国の話」(岩波文庫)です。この本は、100ページほどの短いものです。2冊めは、同じく内村鑑三さんが著した「代表的な日本人」(岩波文庫)です。これは、5人の代表的な日本人について書いた本で、二宮尊徳先生や西郷隆盛先生などが紹介されています。この2冊を読むと、どのように生きてよいかを考える際の参考にしていただけないかと思います。

(ウ)3冊めは、アメリカのトーマス・フリードマンの「フラット化した社会 - THE WORLD IS FLAT」です。この本は、世の中を広く見る点において、特に工学系の方の参考になると思います。

これらの本をじっくり読んで考えてみると、自身を振り返る力が少しずつ身に付き、これから世の中ではどのようなことが起こるのかがよくわかると思います。

(ア)提案の2つめは、新聞を読んで考える力、批判的思考能力を身に付けることです。新聞は、編集する方が夜中の12時まで編集したものを、新聞配達の方が毎日午前3時に起きて、各家庭に配達してくれるものです。

(イ)このCRTのラジオ放送も同様ですが、新聞は刻々と動く世の中の最新の情報を伝えてくれます。マスメディアは素晴らしい働きをし、その中で文章化したものが新聞です。

(ウ)新聞記者は社会のwatch dog(番犬)として社会の問題点を5W1Hの形で読者につけてきます。読者は新聞により社会の問題を知ることができます。社会の問題を知るきっかけは新聞は我々に提供してくれます。ですから、新聞を読むと、自分の力で考える力、最終的には批判的思考能力が身に付くと思います。批判的思考能力とは、新聞で知ることのできる今起こっていることがよいか悪いかを自分の頭で考えることのできる能力をいいます。

これら2つに加えて、現代的なテーマについての論文を筆記用具を用いて執筆する練習もしたほうが就職をする力を身につけるためにはよいと思います。さらに、現代的なテーマについて先生や友達と議論してみると自分の考えが深まり、就職試験にとっても役立つのではないかと思います。

(4)世の中ではこれからどのようなことが起こるのかを考えた上で仕事をしなければ、よい仕事はできません。特に企業は環境対応業と言われるくらい、どんどん変化する企業をとりまく環境に対応しながら仕事の仕方をどんどん変えていくことが求められます。しかし、他方で、その企業の核となる部分、つまりその企業の大事なところは絶対に変えてはならないのです。

仕事は、変えなければいけない部分と、決して変えてはならない部分とを、はっきりさせてからすべきです。そこで何のために働くのか、社会に出てどのような活動がしたいのか、どのような一生を送りたいのか、世の中に何を遺したいのかなどを絶えず考えていくと、就職先で素晴らしい仕事や活動ができると思います。

5. おわりに

このようなことを就職する前に考えれば、採用試験には絶対といってよいほど合格できるという話を、宇都宮大学工学部の「経営工学序論」という講義で10月6日・13日にいたしました。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

2011年5月15日補訂